

今週（3月23日から3月27日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、調達サイドの資金ニーズの強まりから、日を追うごとにレートが上昇する展開となった。日銀当座預金残高は、23日に国債大量償還・利払いがあったことで402兆円程度から始まったものの、米ドル資金供給用担保国債供給オペが大量に行われたことで、日銀当座預金は大幅に減少し、その後は概ね390兆円台半ばで推移した。

無担保コールO/Nは、邦銀を中心に▲0.070～▲0.005%と比較的広いレンジでの出会いが見られた。週初23日の無担保コールO/N加重平均レートは▲0.048%となった。国債の大量償還日にあたるものの、一部の先で資金を厚く積み動きが見られた。24日は▲0.039%とさらに上昇した。それ以降も強い資金ニーズは変わらず、徐々に取り上げる先が増加し、25日は▲0.028%、26日は▲0.020%と、日を追うごとに加重平均レートは上昇していった。週末27日も、引き続きビッドサイドの調達意欲は旺盛で、概ね▲0.030～▲0.005%と高水準での出会いが見られた。ターム物に関しては引き続きオフアーが薄く、出会いが付きづらい状況が続いた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは27日に2W物・20,000億円がオフアーされ、10,770億円（期落ち額8,840億円）と札割れとなった。その他、新型コロナ企業金融支援オペが24日に3M物でオフアーされ、33,968億円の貸付が行われた。マクロ加算残高が最高で2倍加算されることもあり、相当量の応札が見られた。

●レポ市場

今週のGC O/Nは、▲1.00～▲0.13%程度と広いレンジで推移した。週初めから極度の玉不足が意識されていたものの、連日の国債売現先オペ実施を始めとした、日銀による玉不足対策を受け、レートは徐々に上昇する展開となった。週初23日のGC T/Nは、▲1.00～▲0.50%程度、24日は▲1.00～▲0.30%程度、25日は▲0.30～▲0.15%程度、26日は▲0.23%～▲0.15%程度、27日は▲0.18%～▲0.13%程度となった。なお、24日には、レポ市場の安定を確保するための追加的な措置が発表された。

個別銘柄では2Y402～410、5Y136～142、10Y335～357、20Y167～171、30Y59～65、40Y9～12等、カレント近辺の銘柄に引き合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、海外勢の買いが見られる中、GCレートが極端な低水準で推移したことから、週前半は強含みの展開となった。しかし、国債売現先オペが連日実施されたことで、GCレートが次第に落ち着きを取り戻したため、週後半は軟調に推移した。特に、3M物は27日の入札を受けて全般的にレートが大きく上昇する展開となった。出会いは、3M物で▲0.480～▲0.140%、6M物で▲0.348～▲0.285%、1Y物で▲0.290～▲0.280%程度であった。

23日に実施された短国買入オペは、前回から2,500億円減額され、オフアー額2,500億円、応募上限額1,250億円がオフアーされた。平均落札利回較差▲0.027%、按分落札利回較差▲0.062%と、応募上限が少額だったことや、債券相場全体が堅調なこともあってか、強めの結果となった。

27日実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.310～▲0.290%での出会いが見られたものの、平均落札利回▲0.1884%、按分落札利回▲0.1022%とテールが大きく流れる非常に弱い結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.180～▲0.140%出会いとやや持ち直していた。

●CP市場

今週のCP市場は、年度末にあたり、償還総額5兆5,000億円程に対して発行総額は2兆2,000億円程にとどまるなど、例年通り大幅な償還超となった。ただ、3月初頭以来継続している、新型コロナウィルスへの対応から発行の長期化・早期化や発行ボリュームの増加といった傾向には拍車がかかっており、市場残高は過去最高の25兆円近傍での推移となった。

金融市場全体のボラティリティが上昇していることで、投資家のCP購入姿勢が慎重になっており、一部銘柄ではレートが大幅に上昇するボラティルな展開となった。具体的な発行レートは、個別の発行残高や格付けといった要因による部分が大きく、一概に言えないものの、0%付近の若干程度のプラス圏となる銘柄が見られる一方で、0.01～0.20%程度まで上昇した銘柄も多数見られるなど、銘柄毎のレート較差は先週から更に拡大した。高水準の市場残高と、ポジションテイクに慎重な投資家といった構図から、荷もたれ感強く、希望額が集まらない案件も散見された。

26日には今年度最後のCP等買入オペが5,500億円がオフアーされた。市場残高の急速な拡大や、発行レートの高騰から、大幅な増額を予想する声も見られていたが、事前予定から500億円増といった限定的な増額にとどまった。その結果、按分落札レート0.003%、平均落札レート0.008%といずれのレートも前回比（按分▲0.001%・平均0.002%）で大幅に上昇する結果となった。マイナス金利政策導入以降、按分落札レートがプラス圏となるのは初めてである。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
3/23（月）	16,887.78	0.065	110.18	△ 0.048	△ 0.620	4,023,400
3/24（火）	18,092.35	0.035	110.45	△ 0.039	△ 0.880	3,983,600
3/25（水）	19,546.63	0.030	111.13	△ 0.028	△ 0.284	3,943,700
3/26（木）	18,664.60	0.002	110.74	△ 0.020	△ 0.200	3,953,600
3/27（金）	19,389.43	0.005	108.40	△ 0.017	△ 0.160	3,945,700

来週（3月30日から4月3日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
3/30 (月)					
3/31 (火)	2月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 2月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 2月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 2月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 2月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)	2Y 20,000億円 4/1発行			1月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 3月のシカゴPM景況感指数 3月の米CB消費者信頼感指数 10-12月期の英GDP確報値 3月のユーロ圏消費者物価指数速報値
4/1 (水)	3月調査の日銀短観(概要及び要旨,日銀 8:50)				2月の米建設支出 3月のISM 製造業景況指数
4/2 (木)	財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 3月のマネタリーベース(日銀 8:50)	10Y 21,000億円 4/3発行	交付税借入 11,000億円 4/10借入		2月の米貿易収支 2月の米製造業新規受注・出荷・在庫
4/3 (金)	4月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)	TB3M 50,400億円 4/6発行			3月の米雇用統計 3月のISM 非製造業景況指数

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
3/30 (月)	▲ 500	40,100	39,600	国債買入 全店共通 CP買入 ETF買入 国債補完 国債売現先 国債売現先(米ドル)	▲ 8,800 ▲ 700 1,600 ▲ 8,000 ▲ 15,800	11,500 10,800 300 ▲ 8,000 ▲ 15,800	▲ 9,100	30,500	機関向け貸付 年度末諸払い TB3M発行▲47400償還43400
3/31 (火)	1,000	8,400	9,400	CP買入 国債売現先	 16,000	 ▲ 20,000	1,500	10,900	年度末諸払い
4/1 (水)	1,000	▲ 28,000	▲ 27,000	国債売現先	20,000		20,000	▲ 7,000	2Y発行▲21000
4/2 (木)	0	3,000	3,000	国債売現先 国債売現先(米ドル)	8,000 42,600		50,600	53,600	普通交付税 地方特例交付金 税・保険料揚げ
4/3 (金)	0	▲ 16,000	▲ 16,000	国債売現先 国債売現先(米ドル)	12,000 18,400		30,400	14,400	10Y発行▲21000
週 間 合 計	1,500	7,500	9,000	—	109,100	▲ 15,700	93,400	102,400	

3/30は日銀予想、3/31以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、31日に年度末諸払い、2日に税揚げと普通交付税の払いを控えている。国債売現先オペの期日が大量にあるため、日銀当座預金は増加が見込まれる。その他、大口信用供与規制の影響による市場の動向が注目される。レポ市場は、GC O/N物は、末初物で▲0.30～▲0.10%程度、その他は▲0.20～▲0.08%程度での推移を予想する。短国市場は、3日に3M物の入札が実施予定となっている。発行予定額は50,400億円と、前回から3,000億円増加した。GCレートが落ち着きを取り戻しつつある中、期明けの市場動向が注目される。CP市場は、3月末残高としては過去最高（2008年3月末20兆2,717億円）に迫る20兆円台となることが見込まれるなか、新年度に入ること、3月末に発行残高を一時的に落とした先が発行を再開することが想定される。加えて、新型コロナウィルスの影響拡大による先行きの不透明さから、発行需要は拡大するものと思われ、一層のレート上昇も考えられるなど、動向が注目される。

主要なイベントとしては、国内では1日に日銀短観、海外では31日に3月のユーロ圏CPI、3日に3月の米雇用統計などが予定されている。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。